

第三回

藤舎 呂英さん 邦楽囃子方*

旬の演奏家にご登場いただき、その人柄や邦楽との出会い、邦楽の醍醐味などをお聞きする新シリーズ。

※邦楽囃子：演技・舞踊・歌唱(謡・唄)の伴奏のために、あるいは雰囲気を出すために楽器(主に笛・小鼓・太鼓・大鼓・打楽器)や人声(掛け声・囃子詞(こは))で奏する音楽。



藤舎 呂英
とうしゃ るえい

大阪府生まれ。父は藤舎呂浩。宗家藤舎せい子に師事し、没後六世家元藤舎呂船に師事。東京芸術大学音楽学部卒業。現在、放送・舞台(舞踊公演・長唄演奏会等)・海外公演等、幅広く音楽活動を行う。2006年第10回日本伝統文化振興財団賞受賞(同時にCD発売)。現在、藤舎流真しほ会、青瀧会同人。いしかわ子ども邦楽アンサンブル講師。

◆ 楽器を始められたのはいつごろですか。家では祖母が三味線を弾いていました。祖父、父も囃子方です。

小学2年生の時、「新鼓会」と言う囃子方の演奏会出演のため稽古を始めました。が、実は祖父より新しい自転車を買ってあげるから...と言われ、モノにつられただけでした。

それからはぶつくり和楽器に全く触らないまま高校時代はロック漬け。ヘビメタでギターを弾いていました。メカいじりも好きで自動車工学に興味があったのですが、高2のとき進路希望欄に「家業を継ぐ」と書いてしまったことから親に連絡がいき...そこからですね。猛稽古して東京芸術大学に入り、現在に至っています。

◆ お囃子とはどんなものでしょう。

笛、小鼓、大鼓、太鼓の四拍子と、その他仏具などの打楽器で構成されます。笛以外はすべて修得します。楽器にもさまざまな特徴があって、小鼓の胴は江戸時代に作られたものが多く(私の胴は安土桃山のもの)、新たに作るものが難しい貴重品です。皮(小鼓や大鼓は馬、太鼓は牛)は表側と裏側の相性がとても難しく、まるでカップルのようです。家には100枚程度の皮がありますが、ベストの組み合わせを見つけるのは至難の技です(笑)しかも鳴るまでに10年かかる。私の皮は50年のもの!

◆ 日本の伝統音楽、文化の将来は

どんなふうになると?

和楽器の魅力は必ず伝えられるものと思っています。長唄や歌舞伎では囃子は序奏楽器と言われますが、元々は能楽の主奏楽器です。私は囃子だけの音楽に興味

があつて、囃子創作曲を作調、演奏してきましたが、評判も良く手応えを感じており、これからも新しい音楽を創造していいかと考えています。

最近洋楽っぽいイメージの和楽器グループも多く活躍され、若い方々にも邦楽が少しずつ身近な存在になってきましたね。次は純邦楽の古典演奏による和楽器本来の音、空間、魅力

を多くの方々に聴いていただきたいと思っています。

◆ お囃子を習いたい人はどうすれば?

インターネット等情報もありますが、まずはどなたか邦楽演奏家からのご紹介で人を訪ねることをお勧めします。

邦楽に縁のなかった方でも趣味として楽しむこともできますし、プロになる人もいます。私が以前、講師をしていた大学の受講生はシンガーソングライター志望だったのに、お囃子に目覚めて今ではプロとして活躍中。また、慶大(バスケットボール部)出身でお囃子に興味を持ち、今年芸大に入学した弟子もいます。お囃子は楽しいですよ。

◆ 最後にお囃子のアピールをぜひ!

圧倒される楽器の音色、人の発する掛声の響き、音のない無音という空間、このひとときを感じて味わっていただきたいと思えます。



小学二年生の時 囃子大会の舞台にて (左隣、祖父望月天津市郎)

演奏会予定
10/17日(火) 藤舎推峰の会 紀尾井小ホール
11/1日(水) 藤舎流囃子研究会 国立小劇場